

第14回在宅医療推進委員会への提出資料

報告者：高見 徹

<義方校区に地域包括ケアシステムのモデル地区をつくるプロジェクト>

保健・医療・介護・福祉の関係の多職種の情報を一箇所に集め共有する組織をまず作り上げることに全力を注ぐ。これができれば、地域包括ケアシステムの半分以上はできたと言ってよい。このモデルをまず完成させることに全力を挙げる。

平成28年度事業計画

1. 野坂市長に義方校区を米子市の地域包括ケアシステム構築のモデル地区に指定してもらおう。

理由

- ・古くからの住民が多い
- ・高齢化率も高い
- ・人口移動が少ない
- ・鳥取大学医学部に近い
- ・米子中心市街のモデルになる

2. 西部医師会―鳥取大学（具体的には地域医療学講座と地域看護学講座）―米子市（福祉保健科・義方校区の地域包括支援センター）のトライアングルを構築する。また、西部ケア研究会の協力を得る。

3. 義方校区内の保健・医療・介護・福祉のハードとソフトを明らかにする

- ・開業医
- ・訪問看護ステーション
- ・地域包括シエンセンター
- ・民生委員
- ・自治会

4. 義方校区と病院との協力関係を構築する（空きベット確保）

5. 3年間で義方校区に地域包括ケアシステムのモデル地区を完成する。

6. 他の地区の参考とするため、しっかりモデル地区の構築までの記録を残す。

7. 組織づくりのテーマはなんで良い

- ・災害対応
- ・徘徊対応
- ・認知症対応
- ・子供の安全対策

以上が具体的な工程表の基礎になる。